



青少年赤十字岐阜

JUNIOR RED CROSS GIFU 2023



日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市茜部中島 2-9
TEL 058-272-3561
<https://www.jrc.or.jp/chapter/gifu/>



赤十字の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています

~3つの実践目標~

- ・ 生命と健康を大切にする「**健康・安全**」
- ・ 人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する「**奉仕**」
- ・ 広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う「**国際理解・親善**」



青少年赤十字100周年 未来をつくる子どもたちのために

岐阜県青少年赤十字指導者協議会

会長 渡邊 友三郎 (大垣市立 牧田小学校 校長)

令和4年6月に全国指導者協議会総会・研修会がweb開催され、参加させていただきました。1922年に日本初の青少年赤十字が創設されて100年。その発祥校である滋賀県守山小学校の田中校長先生から、学校教育の中に脈々と流れてきた青少年赤十字の精神と伝統の歩みを教えていただきました。実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」と、態度目標「気づき・考え・実行する」が学校教育の柱となり、JRCタイムなどの日常的な活動が根付き、その実践が学校だけではなく地域全体の基盤となっていることがわかりました。100年の歴史の重みを感じる貴重な機会となりました。

岐阜県支部では、青少年赤十字100周年記念事業として、県内すべての小学校、中学校、特別支援学校に図書をお贈りいただきました。これは、加盟率100%だからこそ実現した事業です。本校でもSDGsや福祉、国際理解等に関する図書を購入させていただきました。全校集会で100周年ののぼりを見せながら、青少年赤十字と寄贈図書の紹介をしました。そして、加盟校としてぜひ日本赤十字社について直に学びたいと、9月に本校の5、6年生が岐阜県支部で施設見学と研修をさせていただきました。快く受け入れていただいた支部の皆様へ深く感謝申し上げます。アンリー・デュナンの画像で始まり、赤十字社の歴史や、献血事業についてのクイズ、備蓄倉庫で災害時用の物資や救援車両を見ながら災害支援の学習をさせていただきました。また、ひとりずつ救命救急法を体験することもでき、大変貴重な時間となりました。「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」について教えていただいたことで子どもたちは、青少年赤十字をこれまで以上に身近に感じ、活動に興味を持ったようです。後日行った100周年記念旗の寄せ書きにも学んだことを生かしたいというメッセージが多くありました。

青少年赤十字の態度目標「気づき・考え・実行する」は今の学校教育に求められる「思考力・判断力・表現力」の育成とつながっています。それらの力を「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」に方向づけていくとき、学校教育と青少年赤十字の関わりは大きな意味を持つと思います。ロシアとウクライナの武力紛争、また今年2月に起きたトルコ・シリア大地震による人道危機への赤十字や赤新月社等の活動が報道されています。未来をつくる子どもたちが今ある危機としてそれらを自分事にとらえ、思いやりの心(人道的価値観)をもって行動できるようになるために、学校と青少年赤十字が共に歩んでいく必要性、重要性を今あらためて感じています。

最後になりましたが、細部にわたり温かなご配慮とご支援いただきました日本赤十字社岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、青少年赤十字活動がより一層広まり、活発に展開されることを祈念いたします。



赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第1回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にある者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、1864年に誕生し、現在では世界192の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに

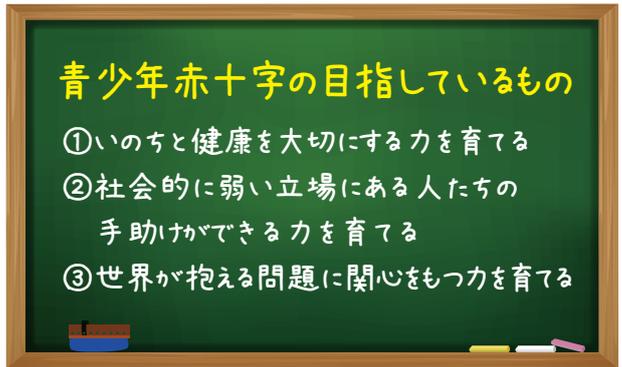
佐野常民らが中心になって設立されました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①～③の柱のもと、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

- ①いのちを救う 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ②せいかつを支える 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ひとを育む 青少年赤十字、看護師等養成

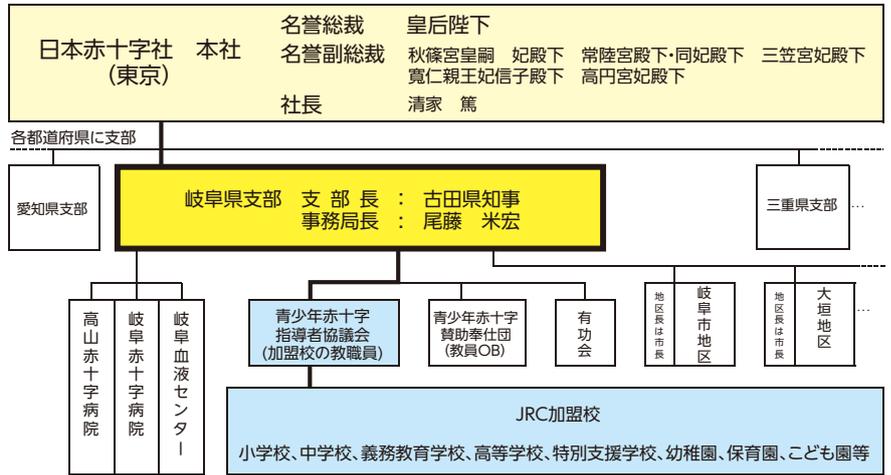


青少年赤十字(JRC:Junior Red Cross)について

- 青少年赤十字は、第一次大戦(1914～1918)時にカナダ・アメリカ・オーストラリアの児童・生徒たちがヨーロッパの戦場となった国々の少年・少女や傷病者を慰めるためクリスマスカードや手紙を贈ったり、学校には文具、傷病者には下着や副木・つえなどの援助を行ったりしたことに始まります。
- 第一次大戦終戦の翌年(1919.2.1)、アメリカ・イギリス・イタリア・日本・フランスは、第一次世界大戦の経験から、「赤十字が戦時の救援だけでなく、平時においても、災害救護、衛生、社会福祉、看護、青少年赤十字などの事業を行うべきである」と赤十字社連盟の創設を呼びかけました。そして、第2回赤十字社連盟総会(1922)において、各国の赤十字社に対し、青少年赤十字の活動を積極的に行うよう勧告されました。
- 日本においては、日本赤十字社や文部省のバックアップを受け、現在の滋賀県守山市立守山小学校の校長先生が中心となって、**大正11年(1922)に日本で最初の少年赤十字団が結成**されました。(世界においては、14番目の加盟になります。)その翌年、大正12年9月1日(1923)に起こった関東大震災での被災者に対し、食糧や文房具などの支援を行ったことが最初の活動とされています。
- 昭和23年(1948)には、活動するメンバーが小学校高学年から中学校、高等女学校、青年学校にも拡大されてきたこともあり、「青少年赤十字」と名称が統一されました。
- 現在では、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加し、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、**①「健康・安全」 ②「奉仕」 ③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、学校(園)や日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげ**ることを目的としています。
- 岐阜県においては、令和4年度末現在、**674校(園)**が青少年赤十字に加盟しており(次頁参照)、大変多くの子どもたちが青少年赤十字のメンバーとして活躍しています。
- 日本赤十字社岐阜県支部においては、教職員対象の指導者講習会や児童生徒対象のリーダーシップ・トレーニング・センターの実施、国際交流事業、子ども新聞プロジェクトなどを実施して人材育成を行うと共に、JRC未来応援プロジェクト推進校を指定し、学校における青少年赤十字活動の推進のお手伝いをさせてもらっています。



日本の青少年赤十字、1922年に滋賀県で誕生し、2022年は100周年になります。赤十字のやさしさや思いやりの心(人道的価値観)をもった子どもの育成を目的として脈々と活動は引き継がれてきました。青少年赤十字の創設100周年のテーマを、「未来のあなたへ、やさしさを。」として、本社や各都道府県において記念行事を行いました。岐阜県支部においては、青少年赤十字100周年事業推進校の指定や活動紹介、青少年赤十字文庫の寄贈など、積極的に活動を行いました。



1 青少年赤十字の県内加盟状況について

(1) 加盟状況

令和3年11月に、県内のすべての公立・私立の小学校、中学校が加盟していただき加盟率100%になりました。

今後は、幼稚園、こども園、保育園や高等学校への加盟の働きかけを行い多くの加盟をしていただけることを目指します。また、加盟していただいた学校や園に対して、青少年赤十字に関わる活動内容が充実するように、支援を行っていきたいと考えています。

青少年赤十字 加盟校(園)	幼稚園 こども園 等	小学校			中学校			義務教育 学校	高等学校			特別支援学校		総数
		公立	公立 (分校)	私立	公立	公立 (分校)	私立		公立	公立	私立	公立	県立 (分校)	
令和4年度	全体数		356	1	2	172	1	9	4	70	20	22	1	
	本年度 加盟校数 内訳	59	356	1	2	172	1	9	4	33	14	22	1	674
	加盟率		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	47%	70%	100%	100%	

(2) R4年新規加盟校(全17校(園))

幼稚園(11園)			
八百津町立八百津保育園	八百津町立錦津保育園	八百津町立久田見保育園	萩須学園御高保育園
杉山第三学園みたけ幼稚園	杉山第三学園鶯沼東保育所	杉山第三学園うぬま第一幼稚園	杉山第三学園中保育園
御高町立上之郷保育園	御高町立伏見保育園	加納学園こぼと第3幼稚園	
義務教育学校(1校)			
本巣市立根尾学園			
高等学校(7校)			
岐阜県立岐阜北高等学校	岐阜県立岐阜商業高等学校(定時制)	岐阜県立大垣北高等学校	岐阜県立瑞浪高等学校
岐阜県立中津川工業高等学校	岐阜県立古城高等学校	西濃学園高等学校	

2 各種会議・研修会の実施状況

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多くの会議や行事が中止になったりWeb会議形式になったりしました。Web形式のため十分に深まらないこともありましたが、参加していただいた方々の感想を伺うと、得るものがあり参加して良かったということでした。

令和4年度			
本社等 主催	JRC支部担当者研修会	Web会議	(4/8)
	JRCリーダートレセン指導者養成講習会	中止	(100周年のため)
	3B指導者協議会会長・支部担当者研究会	Web会議	(6/17)
	3B JRC賛助奉仕団連絡協議会	静岡県	(6/21)
	JRC全国指導者協議会総会・研修会	Web会議	(6/29)
	JRC研究会(各都道府県担当指導主事)	中止	
	JRCスタディ・センター(高校生対象) 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会	Web会議と対面	(R5.3/25) 欠席 対面 (7/14)
支部 主催	岐阜県JRC指導者協議会第1回役員会	対面	(5/16)
	岐阜県JRC賛助奉仕団第1回役員会	対面	(6/16)
	岐阜県JRC賛助奉仕団総会	書面表決	(6/2)
	岐阜県JRC指導者協議会総会	書面表決	(5/31)
	岐阜県JRC賛助奉仕団 第2回役員会	対面	(R5.2/7)
	岐阜県JRC指導者協議会 第2回役員会	書面表決	(R5.3/1)

3 授与関係

① 社長感謝状 (加盟30年以上、積極的な活動)

笠松町立笠松小学校	37年間	実践発表事業にH20.22~25.R1参加
神戸町立南平野小学校	36年間	実践発表事業にH28.R3参加
垂井町立不破中学校	50年間	実践発表事業にH29参加
岐阜県立郡上高等学校	57年間	実践発表事業にH18参加

② 金色有功章 (加盟20年以上、積極的な活動)

該当無し

③ 銀色有功章 (加盟15年以上、積極的な活動)

該当無し

④ 金色枠 感謝状 (加盟10年以上)

岐阜市立則武小学校	関市立下有知小学校	多治見市立脇之島小学校
高山市立宮小学校	八百津町立八百津中学校	

⑤ 銀色枠 感謝状 (加盟5年)

岐阜市立徹明さくら小学校	関市立金竜小学校	土岐市立土岐津小学校
土岐市立濃南小学校	高山市立荘川小学校	飛騨市立山之村小学校
関市立板取川中学校	美濃市立昭和中学校	中学校組合立双葉中学校
中津川市立蛭川中学校	飛騨市立山之村中学校	羽島市立桑原学園
白川村立白川郷学園		

4 各事業

(1) 青少年赤十字マーク入りテントの寄贈

令和2年1月~12月末迄の間に青少年赤十字に新規加盟した学校(園)を対象に、青少年赤十字マーク入りのテント(3m×3m)を、毎年7月下旬に寄贈しています。

今年度は、令和4年7月12日(火)に新規加盟校の代表園として長森幼稚園において贈呈式を行いました。

園児の皆さんにはとても喜んでもらいました。



▲長森幼稚園にて

(2) 岐阜県赤十字有功会 図書贈呈式

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知ってもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校674校の内、令和4年度新規加盟校(園)を対象に、図書と図書券を贈呈致しました。

令和5年2月17日に県内受領校を代表して杉山第三学園うぬま第一幼稚園で贈呈式を行いました。



▲うぬま第一幼稚園



▲小学生向け図書



▲中高生向け図書

※赤十字有功会とは、日本赤十字社の活動支援を行っていただくための有志の方々による支援団体です。

5 主な支部助成事業

(1) 岐阜県青少年赤十字100周年事業推進校(園)の実践

岐阜県支部では、JRC創設100周年を記念し、JRC活動に積極的に取り組んでいただける学校や幼稚園を募集し、5校(園)を指定させていただきました。それぞれどのような活動をされたのか、その一部を紹介させていただきます。

色々な場面で、青少年赤十字で大切にしている態度目標の「気づき」、「考え」、「実行する」姿が見られます。



「性に関する指導」～命の誕生～ 岐阜市立加納幼稚園

加納幼稚園では、「幼児期から性教育を行うことで、生涯を通じて生きる力を育む。」「いのちの大切さを知って、自他を大切にしたり自分の体の素晴らしさに気づいたりすることによって自己肯定感を高める。」「自分自身が価値ある存在であることを認識して、成長していくための基礎を造る。」といったねらいのもと、毎年、年長児を対象に性に関する指導をされています。

授業では、養護教諭の古澤先生から園児に対して「自分はどうやって産まれたのかな?」との投げかけをしたり、クイズを出したりしながら楽しく導入が行われました。

20分間の指導時間では、古澤先生が園児に分かり易い言葉や用語を用いながら、楽しい性教育が行われました。また、古澤先生の言葉の端々に、「みんな違ってみんな良い」という精神を感じ取ることができました。そして、みんなはどの子もお父さんやお母さんなど、多くの人の愛情の中、大事にされて生まれて育ててきたのだから、みなさんも自分自身を大切にするだけでなく、他の子の事も大切にしないといけないことを繰り返し伝えられていました。



▲赤ちゃんがだんだん大きくなっていくね。

強い心と体をつくって、正しい暮らしをめざそう ～上楽学園 長森幼稚園～

長森幼稚園では、コロナ禍のため歯みがきが十分にできない状況が続いていました。今年度、100周年事業推進園として指定をされたことを機に、「健康・安全」に視点を当て、新たに岐阜県立衛生専門学校の歯科衛生学科の学生の臨地実習を受け入れられました。

実習は「幼稚園児と積極的に関わり、園児を理解するとともに、幼児への口腔衛生活動を円滑に展開するため、発育段階及び日常生活行動を理解し、その対処法を学ぶこと」を目的に、10月上旬の2週間で歯科衛生士を目指す、延べ21名の学生が3日間行いました。

実習の中では、食事の仕方や歯の状態を観察するだけでなく、積極的に園児と関わり、自作の紙芝居を通して、歯みがきの大切さや歯の健康について指導していました。園児たちは、「ぼくも食べた後は忘れずに歯みがきするよ。」「わたしは、仕上げをお母さんにしてもらおうよ。」「歯ブラシは細かく動かすんだね。」などと興味をもち、歯みがきへの意欲を高めている園児が多くいました。

今後は、口腔の成長・発達段階の特徴、噛み合わせの状態や親の仕上げのみがき方など、歯の健康づくりに関わった情報提供について保護者に伝えていくことや、歯科優良校として歯の健康づくりに実践的に取り組んでいる近隣の小学校との連携を図っていくそうです。



▲歯ブラシは細かく動かすんだよ。

「命」について考える 岐阜市立長良東小学校

今年度、100周年事業推進校として指定をされましたので、5、6年生を対象に「命」について考える講演会が行われました。

第1回目は、東日本大震災でお子さん(当時大川小学校6年生)を亡くされた平塚真一郎先生をお招きし、『未来をひらく～つながる命 つなげる命～』をテーマに命の授業が実施されました。子どもたちは講演を聴き、自他の命について真剣に考えるとともに、災害について自分事として捉え、防災意識を高めることができました。



▲平塚先生と6年生の子どもたち

また、平塚先生には職員研修でもご講話いただきました。この研修会には、校区の中学校や特別支援学校の教員も参加し、地域の子どもたちを守るために、さらには地域全体の命を守るために学校としてすべきことを地域の学校が一緒になって考えることができました。

第2回目は、5年生の子どもたちを対象に、車いすで生活されている山口由美さん(元パラアスリート)の講演会が行われました。障がいのある方のことや、車いすを利用している方の生活などについての話を聴き、障がいのある方への理解を深めるとともに、心のバリアフリーについて深く考えるきっかけとなったようです。

これらの活動を通して、子どもたちは、「自分の命も他人の命もかけがえのないものであり、共に助け合いながら、大切にしていこう。」という気持ちをもつことができていました。

今後は、今回学んだことを下学年の子どもたちや地域の方々にも発信し、地域ぐるみで命の大切さについて考えていくことができるようにしていきたいと考えているそうです。

車椅子バスケット選手との交流

郡上市立大和西小学校

今年度、100周年事業推進校として指定をされましたので、岐阜県唯一の車椅子バスケットボールチーム GIFU SHINEのメンバーである池戸義隆選手と那須智彦選手を講師にお招きし、5,6年生児童を対象に、奉仕・福祉学習が行われました。

最初は、池田さんから児童に対して、自分の生い立ちや障がい者に対するイメージや現状を話されながら、皆さんに大切にしてもらいたいことなどを話されました。また、自分がなぜ車椅子生活になったか、障がい者としての苦労なども分かり易く話していただきました。

お話の中では、自分の人生を変えた一言として、中学校の恩師に言われた「出来ないことがあれば、出来るように頑張れば良いじゃないか。」が心に残っており、その後の自身の生き方に大きく影響されたことも話されました。

皆さんも、「出来ないことがあった時に、どうすれば出来るようになるかを、与えられた環境の中で考え、色々なことにチャレンジしてもらいたい等、児童の障がい者への理解を深めることや生き方について話しをされました。

講演の後、車椅子で鬼ごっこをしたり車椅子バスケット体験を行ったりしました。



▲車椅子バスケットを楽しむ子どもたち

未来社会を逞しく創造できる生徒の育成

揖斐川町立谷汲中学校

学校目標「変化に立ち向かい、自らの手で未来社会を逞しく創造できる人材の育成を目指す」を具現するために、生徒の主体性を育む教育活動を実践されています。

今年度、100周年事業推進校として指定をされましたので、総合的な学習の時間の中で、「谷汲の魅力発信」というテーマで、全校で目的別の活動を行いました。

具体的には、商品の開発や動画の作成、谷汲の研究など、自分の願いをもって活動しました。

10月には、華厳寺で開催された「サンサンフリーマーケット」において、企業とコラボして作ったシフォンケーキや地元の廃材で作った木のおもちゃなどを販売したり、谷汲の野生動物についてまとめたパネルを展示したり、谷汲の魅力をいろいろな人に発信したりしました。

また、生徒会が人権について考えていく中で「戦争は最大の人権侵害である」ことに気づき、自分たちにできることはないかと考え、ウクライナへの募金を企画しました。

「やってみたい!」という生徒の思いを大切に、試行錯誤しながら実行しています。上手くいかないことや失敗も大切な経験として捉え、教員も支援を行っています。

将来、地域を支えていく子どもたちに「生きる力」を今後も育んでいきたいと願っています。



▲ウクライナ募金をお願いします。

(2) 青少年赤十字文庫の贈呈

県内全ての小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校が青少年赤十字に加盟しています(加盟率100%)。そこで、青少年赤十字に関する興味や理解を深めてもらったり、児童生徒の読書活動を応援したりすることを目的に、令和4年度に1校当たり10万円の図書贈呈を行いました。



▲図書贈呈式
(岐阜市立青山中学校にて)

図書の選定は、各校にお任せし、青少年赤十字で大切にしている3本柱「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する図書を選定してもらいました。

学校からは、図書コーナーの設置の写真や児童生徒の皆さんからお礼のお手紙などをいただだけ、大変嬉しく思っています。



(3) 令和5年度の助成事業について(新規事業)

JRC未来応援プロジェクトの指定校(園)等について(令和5年度新規事業)

R4年度に青少年赤十字は創設100周年を迎え、今年度から新たな100年を目指し、今までの助成金事業の内容等を見直し、教育現場の先生方が活用しやすい事業になるように標記事業を実施することとしました。

この新事業では、今までの事業同様に、子どもたちが健康や安全への意識、福祉やボランティアの心、国際理解や人権尊重の精神を様々な体験活動などをとおして学ぶ中で、「気づき・考え・実行する」姿勢が生まれ、子どもたちの「生きる力」の指針となると考えています。

<指定校(園)> 20万円助成 5校(園)、10万円助成 30校(園)

No	学校名・幼稚園名	テーマ
1	山県市立伊自良北小学校	わが町の防災から他人へのやさしさに
2	郡上市立高鷲小学校	『世界の教育について知り、自分たちの学びを高めよう』
3	郡上市立郡南中学校	持続可能な社会の創り手の育成
4	高山市立東小学校	「福祉や防災について学び、だれもが幸せにらせるまちづくりについて考えよう。」
5	みたけ幼稚園	世界の人びととの友好・親善の精神を育成することにより世界に興味、関心を持つ
1	ながもり第二幼稚園	強い心と体をつくって正しい暮らしをめざそう
2	うめま第一幼稚園	世界の人びととの友好・親善の精神を育成することにより世界に興味、関心を持つ
3	岐阜市立常磐小学校	自ら考え行動する力を育成するシェイクアウト訓練
4	岐阜市立長良東小学校	命を守る ～自分・家族・地域の命を守るように～
5	瑞穂市立西小学校	「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えよう
6	岐南町立北小学校	『豊かに生きる子 考える子・思いやる子・やりぬく子』
7	大垣市立中川小学校	英語でコミュニケーション能力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成 ～英語教育と国際理解教育を通して～
8	養老町立日吉小学校	開校150周年を迎え、自分たちがえがく未来のために自分たちが今すべきこと
9	郡上市立大和西小学校	「今私たちにできること」高齢者と共に生きる大和町づくり
10	郡上市立牛道小学校	地域・家庭・学校の連携で次代の担い手づくりの推進 ～子どもたちの主体性を培い、共生社会に寄与する力を育むために～
11	郡上市立大中小学校	進んで楽しく運動し、自分の体力と能力の可能性や運動そのものの歴史、可能性について考える
12	郡上市立北濃小学校	自分の身体と命は自分で守る意識を高める教育の推進 自他と他者とのかかわり方の意識を高める教育の推進
13	多治見市立養正小学校	人と人との関わりを大切にする活動を通して、自他の良さや違いを理解し、自尊感情を高める。
14	中津川市立落合小学校	自分ごととして捉え、意志のある判断のできる子の育成
15	飛騨市立宮川小学校	ふるさと宮川の宝、池ヶ原湿原を後世に残すために ～ヨシストローづくりから広げる環境保全活動と湿原の魅力発信～
16	下呂市立馬瀬小学校	ふるさと馬瀬の良さや課題に気づき、自分達に何ができるかを考え、他学年や保護者、地域住民の方への発信・提言を行ったり、具体的なアクションを起こせたりする児童の育成
17	下呂市立竹原小学校	ふるさと竹原を知り、「安全・安心・あたたかいまち竹原」を創ろう!
18	岐阜市立藍川北中学校	藍川大家族で住み続けるまちづくり
19	山県市立高富中学校	話そう!語ろう!備えよう!私たちの防災教育 ～ふるさと高富を知って、考えて、そして、守ろう、私たちの命!
20	山県市立伊自良中学校	美術の授業「柿渋染めで染めよう」で作ったマスクや手ぬぐいを、グリーンビレッジのお年寄りや希望が丘特別支援学校の仲間にプレゼントしよう。
21	大垣市立東中学校	未来を創る
22	大垣市立江並中学校	江並中人権宣言を具現し、誰もが安心・安全に生活できる江並中
23	揖斐川町立揖斐川中学校	自分の意思で自己の進路を決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができる能力や態度の育成
24	郡上市立高鷲中学校	地域が誇る高鷲中生～高鷲を考え、高鷲で動く～
25	白川町立黒川中学校	災害、危険回避のための行動と地域社会との共生を目指した活動の在り方
26	羽島市立桑原学園	学校・家庭・地域の三者で学び合い、気付き、考え、実践する防災・減災学習
27	岐阜県立大垣桜高等学校	福祉社会の課題の架け橋に ～自ら考え行動できる人を目指して～
28	聖マリア女学院中学校・高等学校	フィリピンの友達の支援や持続可能な社会のために出来ることを取り組む ～まごころ募金・物資集め・コンタクトレンズケース集め～
29	高山西高等学校	教室のCO ₂ 濃度假測定を保健委員会が行い、換気の必要性などを呼びかける
30	岐阜県立下呂特別支援学校	「身体を動かそう!～We can do it～」

6 青少年赤十字作品コンクール ～令和4年度はJRC創設100周年～

今年度の作品応募は、延べ199の学校や幼稚園等から2,641名(書の部2,397名 絵画の部244名)の皆さんから作品応募がありました。特に中学生や高校生の皆さんからポスターの作品の応募が多くありました。

また、令和4年度はJRC創設100周年の記念の年でもありましたので、JRC創設100周年記念特別賞を設け、上位入賞者の表彰式を岐阜県図書館に於いて11月20日(日)に実施しました。

その後、優秀な作品を県内8所で作品展示を行わせていただきました。

書や絵画の作品に応募していただいた皆さん全員に参加賞を、そして、入賞された皆様には賞状と副賞をお渡しさせていただきました。

令和5年度も作品を募集させていただく予定です。多くの方の応募をお待ちしております。

校種	合計	書の部		絵画の部	
		全参加者数	参加校数	全参加者数	参加校(園)数
幼稚園保育園等				71	3
小学校	2,274	124		152	41
中学校	76	19		8	3
義務教育学校	5	2		0	0
高等学校	36	4		6	1
特別支援学校	6	1		7	1



▲表彰式(岐阜県図書館 特別会議室)



▲イオンモール各務原店 展示会場

<令和4年度 入賞作品代表>

【絵画の部】



青少年赤十字創設100周年記念特別賞
瑞穂市立穂積小学校 6年
渡邊 心結



岐阜県知事賞
大垣市立興文中学校 1年
桐山 佳大



岐阜県議会議長賞
瑞穂市立穂積中学校 3年
山田 理紗



岐阜県教育委員会教育長賞
大垣市立興文小学校 3年
谷咲 歩

【書の部】



青少年赤十字創設100周年記念特別賞
大垣市立星和中学校 2年
堀田 蓮空



岐阜県知事賞
大垣市立西中学校 3年
高木 隼翔



岐阜県議会議長賞
高山西高等学校 2年
三枝 菜月



岐阜県教育委員会教育長賞
岐阜県立大垣桜高等学校 1年
野川 麻帆



青少年赤十字創設100周年事業のロゴデザイン

青少年赤十字は、2022年に創設100周年を迎えることを記念して、100年続く青少年赤十字のイメージをデザイン化しました。世界性と活気をイメージして、ピンク色の英文字で「JUNIOR RED CROSS 100th ANNIVERSARY」と記しました。

2023年4月1日 発行

【発行・編集】 日本赤十字社岐阜県支部
〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9
TEL 058-272-3561